



OITA SOFTBALL DREAM PROJECT

Since 2018 ～4年目の報告～

一般社団法人 大分県ソフトボール協会
プロジェクト委員会

2021 年 12 月 18 日 理事会

概要

01.目的

- ① 小・中学生チームの選手・チームの増加につなげる。
- ② 技術力、競技力の向上、強化につなげる。
- ③ 指導者の有効活用ならびに育成・資質向上につなげる。

02.目標

- ① 少年団・中体連チームの減少に歯止めをかけ、小中学生チームを増加させる。
- ② 県内の公認指導員を有効活用し、積極的に講習会に派遣し指導技術および資質向上を図る。
- ③ 2028年までに日本代表選手（男女）を輩出する。（各カテゴリー）
- ④ 2028年までに都道府県対抗大会（中学生）、国体（少年・成年男女）で入賞を果たす。

03.報告・連携

（公財）日本ソフトボール協会
2030ありたい姿
～支部活性化プロジェクト～

04.報告(活動実績)

- ① ジュニア練習会
- ② 小中学生サポート
- ③ 小中学生研修合宿(中止)
- ④ 選抜チーム強化サポート
- ⑤ 中学3年生サポート

05.結び

- ① 2022年度の活動
- ② 2028年までの展望

報告

4年目となり、少しずつですが成果が見えてきました。

【強化面】

中学生の成果が顕著です。

【普及面】

小中学生の競技人口は激減から微減傾向になりました。

【日ソ連携】

支部活性化プロジェクトと連携し、コロナ禍でありながらもできることを無理せずに事業を展開しています。



日本ソフトボール協会 当該中期戦略の位置づけ ～2030年ありたい姿への道のりイメージ～

2024年中期戦略

2030に向けての
具体的実行プランの第一フェーズ

2024年 競技人口増の 施策が現場に 落とし込まれている

- 若年層競技人口減衰率：50%改善
- 都道府県協会法人化：100%

2030

身近でメジャーなスポーツになる

- 若年層競技人口増加率：2%以上
- 都道府県協会財政基盤：全協会独立黒字採算向上（2027比）
- トップチームジュニア育成プログラム：100%稼働
- トップリーグ観戦者数：600%（2020比）

2027年

地域に根付いた 生涯スポーツの地位獲得

- 若年層競技人口減衰率：100%改善
- 都道府県協会財政基盤：全協会独立黒字採算
- トップチームジュニア育成プログラム：100%稼働
- トップリーグ観戦者数：400%（2020比）

県協会と日本協会との連携

大分県協会重点事業
OITA SOFTBALL
DREAM PROJECT
(県協会2018～)

⇔
連携
アドバイス

日本協会2030年ありたい姿
「支部活性化プロジェクト」
(日本協会2020～)
※電通の協力

目的の共通点 小中学生への普及活動（競技人口の増加）



2021年

①小中学生 サポート



既存チームサポート



既存チームサポート



創部サポート

小学生少年団 1 つ創部



校区体験会

中学校区における校区体験会



練習サポート

地域限定型小中高生交流大会

②ジュニア練習会



ジュニア練習会in佐伯

11月に開催（佐伯市）
～基本技術の習得～



ジュニア練習会in佐伯

午後は中学生選抜に特化
～選抜強化と連携～



ジュニア練習会in大分

1月に開催（日本文理大学）
～地元大学生から指導～
～チーム大分の醸成～



ジュニア練習会in大分

企業と連携
～大分菅公株式会社様～

③中学生県選抜チーム強化練習会サポート



高校生と練習試合

県内高校と練習試合を積む



基本練習

11月～1月間は
定期的に練習会



実践練習

2月からは実践練習を積む



都道府県対抗大会派遣

全国ベスト16を達成

④ ジャンプアップソフトボールアカデミー（旧中学3年生サポート）



アカデミー開講

県内中学3年生23名参加

2021年11月

～2022年2月まで活動



基本練習

高校での活動につなげる



県選抜と実践練習

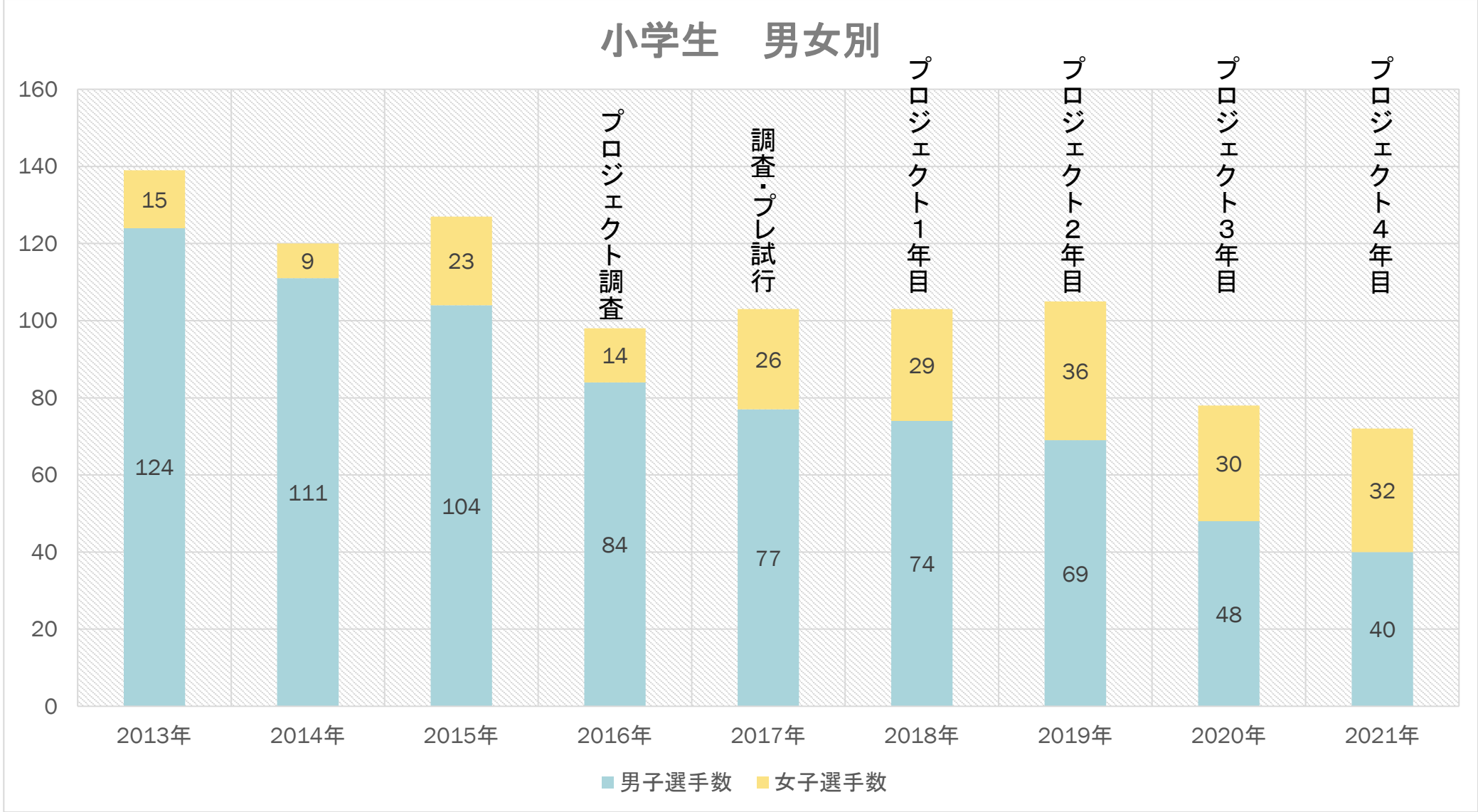
県選抜と連携



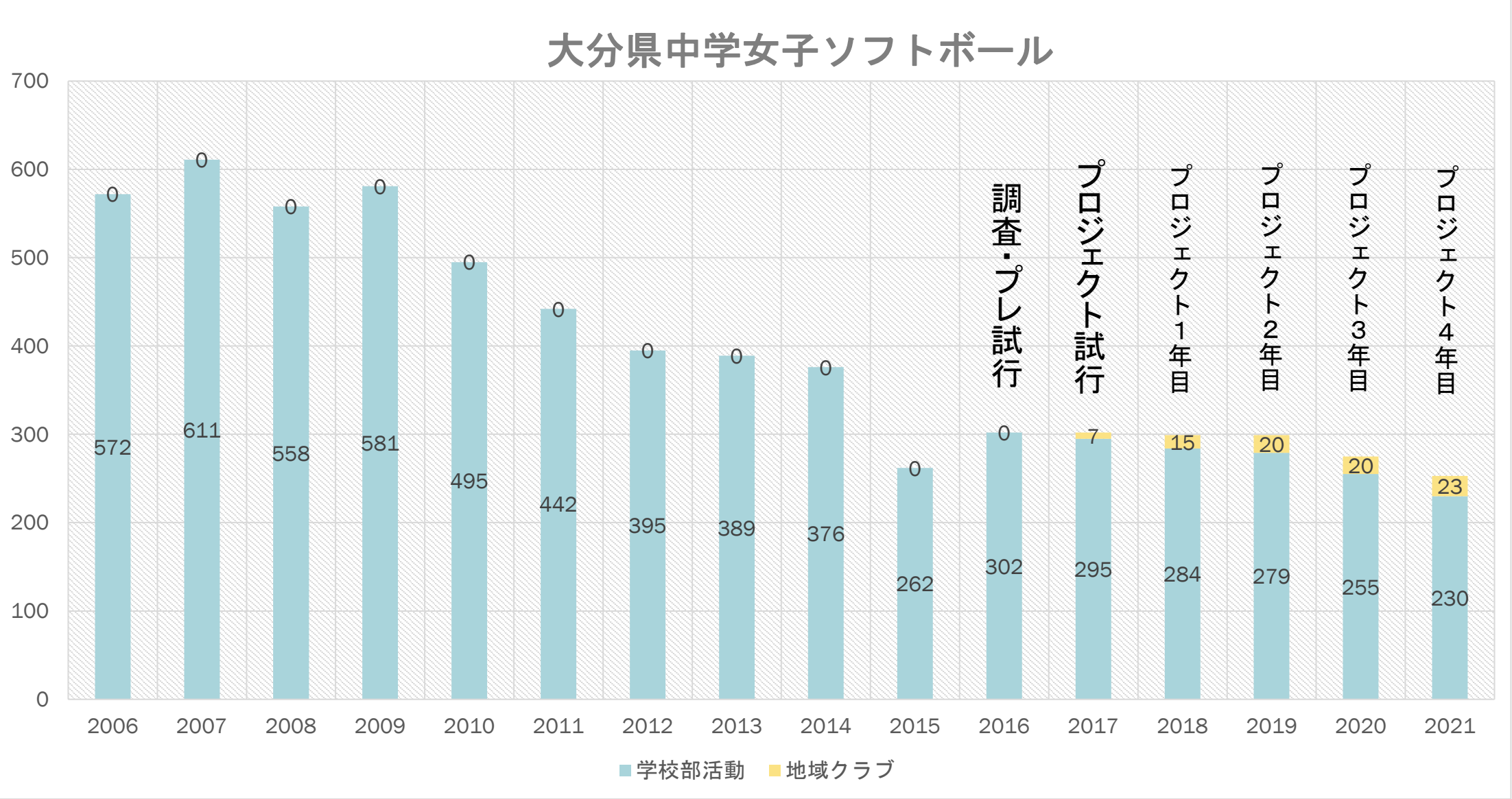
県中学生選抜と交流

中学1年生から3年生まで
合同活動

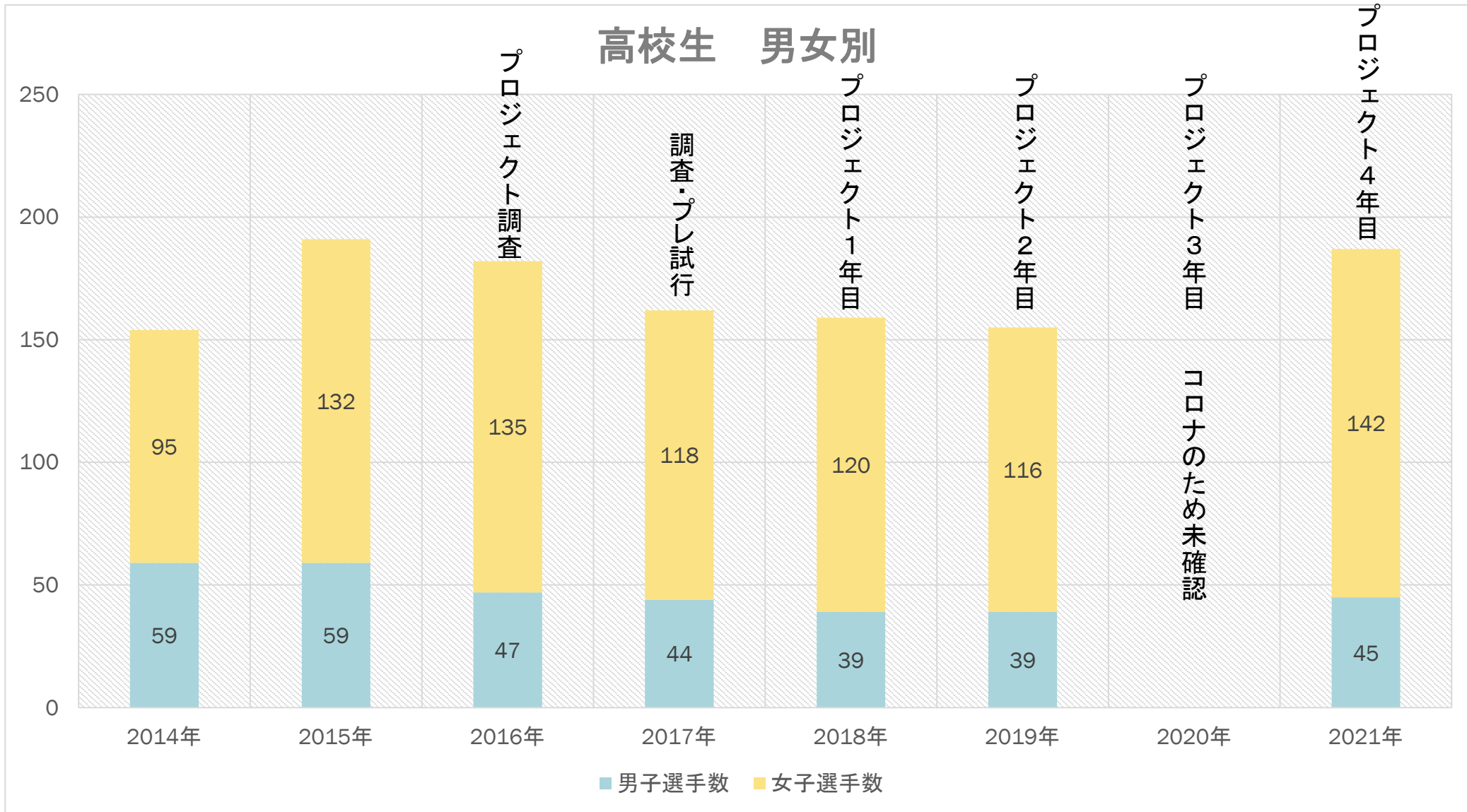
大分県 小学生の競技人口の推移（プロジェクト4年目）



大分県 中学生女子の競技人口の推移（プロジェクト4年目）



大分県 高校生の競技人口の推移（プロジェクト4年目）



続けてくれた生徒が増えた！？

中学生の大会結果



全九州中学生選抜大会

大分ドリーム 3位



都道府県対抗大会

県中学生女子選抜 ベスト16



九州中学校体育大会

明野中学校 3位

坂ノ市中学校 ベスト8



全日本中学生大会

大分ドリーム ベスト16

私たちのチーム



プロジェクト委員長

高橋 秀幸

プロジェクト副委員長

古本 拓巳

強化委員長

濱口 亮

強化副委員長

長澤 佳子

指導者委員長

甲斐 寿義

指導者副委員長

小西このみ

普及委員長

佐藤 政之

普及委副員長

二宮 孝毅

技術委員長

柚木 徹

プロジェクト タイムライン(2018-2028)

第 1 期 2018年～2020年（3年間）

10年間で若年層の競技人口が半減し、早急な対応が必要となった。2016年調査、プレ試行を経て、協会内に若年層の普及と強化を図るため、2018年にプロジェクト（以下、PJ）委員会（以下、PJ委）を設置。各種事業を開始。まずは中学生女子の普及と強化に着手する。

第 3 期 2024年 – 2026年（3年間）

7年目に突入。PJ各種事業を各委員会の事業に移行準備に入る。

若年層の競技人口、横ばい→増加へ

PJ目標達成率75%以上。

第 2 期 2021 年– 2023年（3年間）

4年目に突入し、各種事業を発展させながら実施する。

若年層の競技人口減が激減→微減→横ばいにする。

第2期より若年層男子、小学生の普及に着手する。

PJ目標達成率50%以上。

第 4 期 2027 – （10年目）

9年目に突入。若年層（男女）の競技人口増加。PJ目標達成率100%を超える。

PJ委は10年で解散のため、PJ事業を各委員会へ移行する。PJ委解散後、PJ委を調査・研究を行う部署として再構築。各委員会へ情報提供を行い、各委員会のサポートをする。

第 1 期の目標

長期目標

- ① 少年団・中体連チームの減少に歯止めをかけ、小中学生チームを増加させる。
- ② 県内の公認指導員を有効活用し、積極的に講習会に派遣し指導技術および資質向上を図る。
- ③ 2028年までに日本代表選手（男女）を輩出する。（各カテゴリー）
- ④ 2028年までに都道府県対抗大会（中学生）、国体（少年・成年男女）で入賞を果たす。

若年層の競技人口減少歯止め

- 減少をくい止めるため、校区体験会を実施し中学校部員の歯止めをする。
- 新規チーム創部の働きかけ。
- 激減から微減に転換させる。

ジュニア層へ優秀指導者の定期的な研修機会創出

- ジュニア練習会の開催（11月～2月）
- 選抜強化練習会へ協会役員の派遣（11月～3月）
- 都道府県対抗大会ベスト8を目指した継続的なトレーニングの実施。

第 2 期の目標

長期目標

- ① 少年団・中体連チームの減少に歯止めをかけ、小中学生チームを増加させる。
- ② 県内の公認指導員を有効活用し、積極的に講習会に派遣し指導技術および資質向上を図る。
- ③ 2028年までに日本代表選手（男女）を輩出する。（各カテゴリー）
- ④ 2028年までに都道府県対抗大会（中学生）、国体（少年・成年男女）で入賞を果たす。

若年層の競技人口増加

- 微減から横ばいへ
- 校区体験会の積極的活用
- 既存チームへの入部の働きかけ
- 新規チームサポート
- 他競技団体と連携

追加の優先事項

- ジュニア練習会の質の向上
- 中3ジャンプアップアカデミーの創設
- 県中学女子選抜スタッフの増員
県内指導者の有効活用
- 県中学男子選抜チームの創設
県内指導者の有効活用

競技への関心の機会創出

- SNSで積極的に発信
- 協賛企業（スポンサー）の募集
- メディアの活用（TV・新聞）
- JDリーグの誘致
- オリンピアンを活用

成果

プロジェクト事業は堅調です

コロナ禍ではありますが、順調に事業を展開しています。

順調に強化は成果をあげています

第1期プロジェクトを完了しました。

中学生女子の大会結果が好調です。

選手、指導者、保護者のニーズに応えています

昨年は、各事業延べ約500名もの選手をサポートし、選手に関わる大人たち約900名、延べ約1,400名に関わりを持ち、普及と強化に貢献しました。

若年層の競技人口が微減になりました

皆様のおかげで、激減から微減になりました。

日本協会と連携を続けます

日本協会より「支部活性化プロジェクト」の第1期メンバーとして抜擢され、現在も連携中であり、大分県協会の取組を、新しいアイデアとして日本全国に広めていく予定です。

今後について

各事業をより良きものにするために

- ・積極的な参加の呼びかけ
- ・講師陣の選定によって選手、指導者、保護者の意識の変化を促す
- ・協会員の参加
- ・ジュニア練習会の県北、県中、県南での実施する

選手、指導者、保護者のニーズにさらに応えるために

- ・定期的にプロジェクト委員会会議の開催
- ・各事業ごとに参加者からアンケートを収集
- ・受益者負担の観点から参加料の徴収も視野に入れる
- ・助成金や補助金を有効に活用する

競技人口増加に向けて

- ・若年層のソフトボールをする機会の創出
- ・チームの紹介
- ・他競技との連携
- ・協会員一人ひとりが当事者意識をもつ

日本ソフトボール界の若年層の普及のリーダーに

全国的にこのテーマにどう取り組めばいいか苦慮している都道府県ばかりです。大分も初めはそうでした。しかし、何もしないよりは**やった方がよいに決まっています**。我々は様々なアイデアを出し、協会全体で取り組み、そのノウハウを全国へ提供します。



ありがとう ございました

皆さんの献身的な取り組みとプロジェクトに対する真摯な姿勢のおかげで、今後もさらに成果が出ることは確実です。

協会員一丸となって頑張りましょう。

一般社団法人 大分県ソフトボール協会
プロジェクト委員会 委員長 高橋 秀幸